

二本のオリーブの木であって二つの燭台である。非常に変わった形容の仕方ですが、これは、読者が旧約聖書を既に知っているということを前提に書かれている表現なんです。

旧約聖書に、その表現で紹介されている人物たちが出てきます。

ゼカリヤ書 4 章の後半。イスラエルを表す燭台があって、その左右に 1 本ずつオリーブの木が立っています。このオリーブの木から燭台に管が繋がっていて、オリーブオイルが絶え間なくずっと供給され続けているので、燭台は油切れになることなく煌々と輝くんですね。

燭台はイスラエルを表します。イスラエルを輝かせ、元気づけ、証し人として必要なエネルギー・励ましの言葉を供給し続ける、オリーブオイルの供給者のような 2 人の証人を預言しているんです。

ゼカリヤ書 4 章 11 節-14 節

私（ゼカリヤ）は彼に尋ねた。「燭台の左右にある、この二本のオリーブの木は何ですか。」

そして再び尋ねた。「二本の金の管によって金の油を注ぎ出す、このオリーブの二本の枝は何ですか。」

すると彼は私にこう言った。「あなたは、これらが何であるかを知らないのか。」

私は言った。「主よ、知りません。」

彼は言った。「これらは、全地の主のそばに立つ、二人の油注がれた者だ。」

ゼカリヤが活動していた時代は、第二神殿を再建している最中でした。その間いつも横槍や妨害が入って、ユダヤ人たちは心くじかれそうになります。そんなユダヤ人を励ますために、2 人の指導者が立てられました。大祭司ヨシュアと総督ゼルバベル。この 2 人のユダヤ人指導者の励ましによって、意気消沈していたユダヤ人たちが奮い立ち、もう一度 神殿再建に取り組もうと立ち上がるんですね。

そういう事があったというのを頭に入れながら、先ほどの**黙示録 11:4** **彼らは、地を治める主の御前に立っている二本のオリーブの木、また二つの燭台である。**

二本のオリーブの木は、まるでオリーブオイルで滴っている木のように、聖霊で満たされている 2 人の証人のことです。

二つの燭台。燭台はランプです。暗黒時代/暗闇の艱難時代に希望の光を照らす 2 人の証人。

いったい彼らは誰なのでしょう。この時代に救われる 2 人のユダヤ人なので、この時代にならないと分かりません。

さて、この 2 人の証人はユダヤ人社会に大きな衝撃を与えるんですね。というのは、非常な説得力をもって力強い証しをしたんです。その力強さには 1 つ理由がありました。奇跡を伴ったんです。

6 この二人は、預言をしている期間、雨が降らないように天を閉じる権威を持っている。天候を左右する力がある。また、水を血に変える権威、さらに、思うままに何度でも、あらゆる災害で地を打つ権威を持っている。

かつてモーセは 10 の災害でエジプトを打ちましたが、10 どころの話じゃないんです、この人たちは、**思うままに何度でも、あらゆる災害で地を打つ権威を持っている。**しるしを求めるユダヤ民族は、「旧約聖書時代に登場したどの預言者よりもたくさんの スケールのかい奇跡を、次々思うままに繰り出すこの 2 人の預言者はいったい何者なんだ?!」と彼らの言葉に耳を傾けるでしょう。

そして心を動かされて、「ナザレのイエスこそユダヤ人のメシアなのだ」と気づく人たちがたくさん起こされるに違いありません。

もちろん彼らのメッセージは、普通のユダヤ人が聞いたらカチン！とくる内容ですよ。おそらく**ヘブル人への手紙**の内容が、彼らのメッセージの中に出て来るんじゃないかと思うんですね。

この時は神殿が建っていて、艱難時代前半 3 年半の間、そこで一生懸命ユダヤ教の儀式をやっているんですが、**ヘブル人への手紙**には「神殿礼拝、全くムダ！」ということが書いてあるんです。神殿礼拝は既に廃れているもの。本物の神殿で、本物のメシアで、ユダヤ人にとって必須のいけにえとなってくださった方、いけにえで 大祭司で 礼拝の対象である方、それはナザレのイエス。ナザレのイエスを除外しておいて、儀式的に神殿礼拝をなんぼやってもマツタクの無駄。それは、迷った道に墮落していくことである。ということが**ヘブル人への手紙**の内容なんですね。

これを、一生懸命エルサレム神殿で礼拝しているユダヤ人が聞いたらどう思いますか。「ナニぬかしとんじゃー!」と、カチーンくるんじゃないですか。宗教的に熱心であればあるほど、この 2 人を亡き者にしようと迫害するに違いないのです。

しかし、**5 もしだれかが彼らに害を加えようとするなら、彼らの口から火が出て、敵を焼き尽くす。もしだれかが彼らに害を加えようとするなら、必ずこのように殺される。**

無敵じゃないですか、この人たち。奇跡は行い放題。まっすぐに御国の福音を語り続ける。どんな預言者よりも凄い奇跡を次々に起こす。しるしを求めるユダヤ人たちが納得するまで、思う存分 しるしと奇跡で福音の真実を立証します。だれも彼らを止めることはできません。

と思われたその時、**7 二人が証言を終えると、底知れぬ所から上（のぼ）って来る獣（反キリスト）が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺してしまう。**

暗殺されて死んだはずの反キリストが生き返って、2 人の証人と戦い、彼らは敗北して殉教者となってしまうんです。善が悪に敗れてしまうのか?! 正義が悪に屈服するのか?! いや。屈服したかに見えて、実はとんでもないどんでん返しが控えていたんです。次回はそれを見たいと思います。

もしよろしければ、チャンネル登録もお願いします。
また このチャンネルでお目にかかりましょう。それまで皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。